

出産で痔に…受診どうしよう

お尻治療 女性医師で安心

江戸時代から300年以上続く姫路市南八代町の肛門専門病院「木村病院」に、兵庫県内でも珍しい専門の女性医師が加わり、女性の外来受診が増えている。痔の治療で訪れる患者が大半を占める同病院。男性医師による診察、治療に抵抗のあった女性が受診しやすくなり、患者から「女性の先生がいて安心した」「女性ならではの相談ができる」などの声上がる。

姫路の肛門専門病院

江戸時代の貞享4（1687）年に開院した同病院は、近隣では珍しい肛門専

（井沢泰斗）

門（しじ）の種類と主な治療



法

排便時のいきみなどで

肛門に強い負担が生じ、直腸と肛門の境目付近に血管のこぶができ

る「いぼ痔（痔核）」▽硬い便や下痢で肛門の皮膚が切れる「切れ痔

（裂肛）」▽肛門近くが細菌の感染

による治療や手術が必要となる。

で化膿（かのう）し、うみの排出後も管が残る「あな痔（痔ろう）」がある。症状が軽度の場合は、排便習慣や食生活を改善する生活療法、内服薬や座薬による薬物療法で治療するが、重度になると注射薬に

口コミで患者増

門病院として県内屈指の年間700件の手術を実施。北海道から九州まで全国から患者が訪れる。2013年に就任した11代目の木村泰之院長（45）まで代々、木村家の長男が引き継いできた。

口コミで広がり、女性の外来患者の割合が4割から5割に増えたという。痔の手術で入院した姫路市内の女性会社員（53）は「患部を他人に見せるのは勇気がいることなので、女性の先生がいてほっとした。痔は男性の病気と思っていたが、意外と女性の受診が多いことに驚いた」と話す。

「多くの女性が出産を機に痔を経験する。元々、潜在的なニーズはあると感じていた」と木村院長。常勤医として加わってくれる女性医師を探し、姫路出身で神戸大病院（神戸市中央区）に勤めていた山下亜津紗さん（34）を16年から迎え入れた。

18年4月からは副院長も務める山下さん。女性は家族の体調を優先してしまいがち、自身の健康は後回しになって症状が悪化する傾向が気かりだという。「痔で病院に来ることにためらいがある女性も、一度来てもらえれば抵抗感はなくなる。自身の存在が受診のハードルを下げるきっかけになればうれしい」と語る。

木村病院によると、肛門科のある病院やクリニックは県内に約130施設あるが、女性の常勤医は3人ほどしかないという。同病院では、山下さんの加入が

で化膿（かのう）し、うみの排出後も管が残る「あな痔（痔ろう）」がある。症状が軽度の場合は、排便習慣や食生活を改善する生活療法、内服薬や座薬による薬物療法で治療するが、重度になると注射薬に



女性患者を診察する山下亜津紗さん
＝姫路市南八代町